

6
令和2年

心の生涯学習誌
れいろう



〈れいろうカレッジ〉(今月のテーマ)

親離れ子離れの 準備をしよう!

須坂輝子

モラロジー研究所 生涯学習講師

志賀内泰弘

「プチ紳士・プチ淑女を探せ!」
運動代表

〈思春期の処方箋〉

わが子の進路はどれが正解?

花まる学習会 松島伸浩

思春期の処方箋



6



まつしまのぶひろ
花まるグループの進学塾部門「スクールFC」代表 松島伸浩

昭和38(1963)年、群馬県生まれ。花まるグループ常務取締役。大手進学塾で経営幹部として活躍後、36歳で自塾を立ち上げ、個人と組織の両面から、「社会に出てから必要とされる『生きる力』を受験学習を通して鍛える方法はないか」を模索する。その後、花まるグループに入社。のべ10,000件以上の受験相談や教育相談の実績があり、保護者からの絶大な支持を得ている。著書に「中学受験 親のかかわり方大全」(実務教育出版)など。

反抗し、秘密を持ち、葛藤で心をヒリヒリさせている思春期の子どもたち。この時期の接し方について悩むすべてのお父さんお母さんに、「花まる学習会」の講師たちが「心の処方箋」をお届けします。

進路の決め方で迷ったら

「わが子の場合はどうなのか」と考えてみる。

どうかという選択肢があります。私は受験の専門家ですので、これまでたくさんのご家庭の相談を受けてきました。「うちの子は受験に向いているのか」「どの中学校が合っているのか」など相談は多岐にわたります。ほかの人が気になり、「周りの子と比べてうちの子は全然やる気がありません。何かいい方法は無いでしょうか?」という相談も絶えません。ある悩みが解決したら次の悩みが生まれます。子どもは常に成長していますから、親としてはいつまでたっても不安は消えないのです。

私たち日本人は長い間、物事には必ず正解があるという「正解主義」の教育を受けてきました。あまり疑うこともなく、それが将来につながる勉強だと思ってきました。しかし、勝ち組といわれる偏差値の高い大学に進学しても、実社会に出ると相手次第で答えが変わったり、明らかに間違っていることを正しいと言われて、その狭間で悩み、鬱になってしまったりがたくさいあります。人間関係にこそ正解はないのですから、よく考えれば当たり前なのですが、どこか

に正しい答えを求めてしまいがちです。

正解を探さなくていい

子育てにも正解はありません。私はこれを前向きに捉えていた方がいいと思います。正解を探す必要はないのです。子どもが思ったように行動してくれないのは、親のせいではなく子どもの特性なのです。思春期がまさにそうで、むしろ親の言うとおりに行動する子は、コントロールされていなか心配になります。親の言うことを聞かない子は、自分の意思をちゃんと持っている子だと思えます。

私が受け持ったクラスにもやんちゃな子がいました。でも、手がかかる子ほど、豊かな発想や人とは違う才能を持っていて、欠けている部分を補ってもあまりある成長を見せてくれました。子どもの欠点ばかり指摘しすぎると、同時に長所もつぶすことがあります。ある県内有数の進学校で、生徒向けの講演をしたときの話です。失敗することの大切さを強調して伝えたところ、生徒から「失敗はしてはいけないと思っ

わが子視点で考えよう

親が子どもの進路についてどこまで口を出すべきなのか。ご家庭によって考え方は違います。夫婦で意見が食い違うこともあるでしょう。

「公立だったけれど、とても充実していた。無理して私立に行く必要はない」「恩師にも一生の友だちにも出会えたいし、私立に行つてよかったわ」

単に「公立か私立か」というだけでもさまざまな意見があります。しかし、あくまでも自分の場合はそうだったというにすぎません。大切なのは、「わが子の場合はどうなのか」です。そもそも、公立に通えば私立の良さは分らないですし、その反対もいえます。自分の経験でしか語れないところが、子育ての難しさです。

親の不安はなぜ消えない

ここでは、小学生の進路について考えてみます。主に都市部では中学校受験をするか

ていました「勇気が出ました。いろいろなことにもっと挑戦したいです」など、大きな反響がありました。

成績表でオール5をとるような優秀な生徒の中には、いい成績をとること自体が目的になり、自分自身の個性に気づけない子がいるのです。最近はいい大学に進んでもその先の進路を決められない学生が多いとも聞きます。

今回の新型コロナウイルス感染症の問題のように、子どもたちはまさに答えがない未来を生きていきます。過去の経験や実績が通用せず、失敗から学ぶことが当たり前になるのです。そういう社会では、失敗を恐れず、自分の意思で決断し、行動する人間が求められるでしょう。

わが子のことを一番理解しているのは親ですから、悩み抜いて出した答えは、その子にとって最善の選択です。わが子を信じ、良いところを認め、失敗してもたつぷりと愛情を注いであげてくると思います。たとえ途中で迷っても、親から受けた愛情こそが大きな支えになることは間違いありません。

このコーナーの感想をぜひお寄せください!
http://bit.ly/reirou0206

